

光市子ども・子育て支援に関する市民アンケートの調査結果
(概要版)

光市子ども家庭課

平成26年7月

目 次

1	調査方法	1
2	調査の結果概要	1
	(1) 家族の状況など子どもをめぐる環境について	1
	(2) 保護者の就労状況について	3
	(3) 幼稚園や保育所などの利用について	3
	(4) 地域の子育て支援事業の利用について	4
	(5) 子どもが病気の際の対応について	5
	(6) 一時預かりなどの利用について	6
	(7) 小学校の放課後の過ごし方について	7
	(8) 育児休業制度について	8
	(9) 日常の子育てなどについて	9
	(10) 妊娠・出産について	10
	(11) 子どもを何人育てたいかについて	11
	(12) 仕事と子育ての両立について	12
	(13) 地域での子育てなどについて	12
	(14) おっぴ都市宣言について	13
	(15) 子育て支援等についての今後の要望	14

光市子ども・子育て支援に関する市民アンケート の調査結果の概要について

1 調査方法

調査対象者	①小学校就学前児童の保護者 1,800人 ②小学生児童の保護者 1,200人
調査方法	郵送による配布回収
調査時期	平成25年10月17日～10月31日
調査票回収数	①小学校就学前児童の保護者 806件 (44.8%) ②小学生児童の保護者 514件 (42.8%)

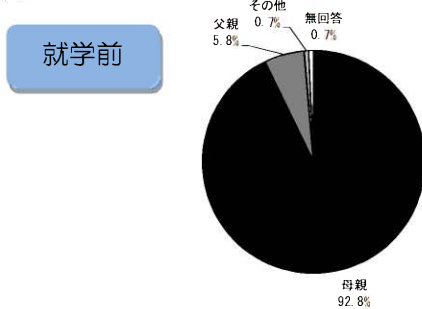
2 調査の結果概要

(1) 家族の状況など子どもをめぐる環境について

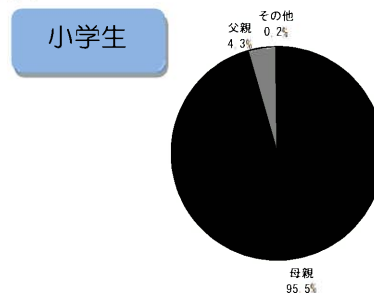
①アンケートの回答者

小学校就学前児童の保護者（以下、就学前という。）、小学生の保護者（以下、小学生という。）ともに、「母親」が大半を占めています。

(SA) N=806



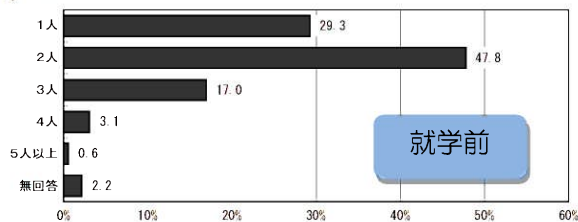
(SA) N=514



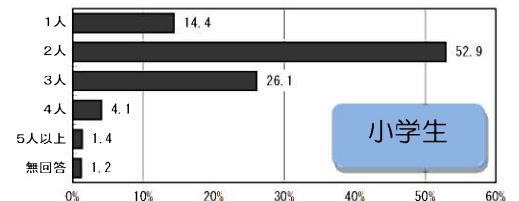
②子どもの人数

就学前、小学生ともに、「2人」が最も高くなっています。

(数値) N=806

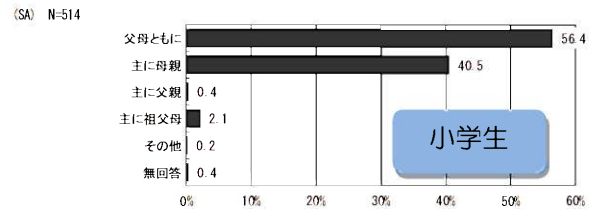
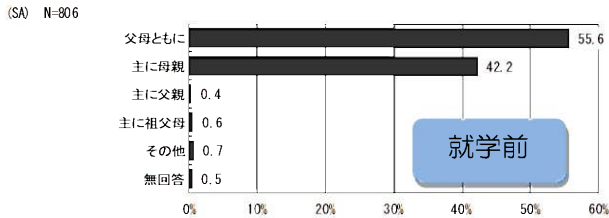


(数値) N=514



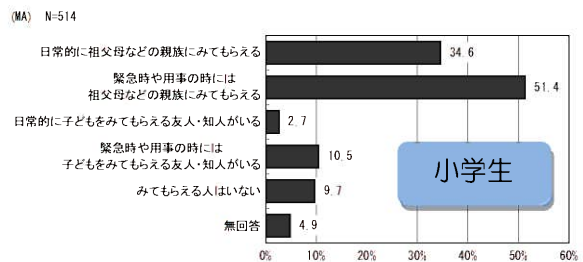
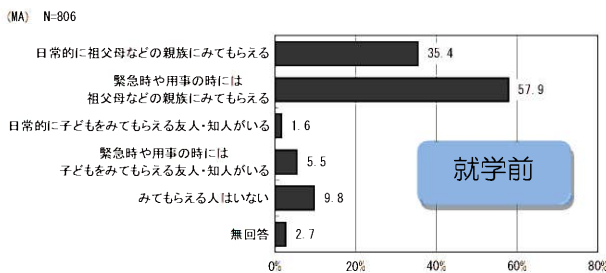
③主に子育て（教育を含む）をしている人

就学前、小学生ともに、「父母ともに」が5割以上と最も高く、次いで「主に母親」が4割程度となっています。



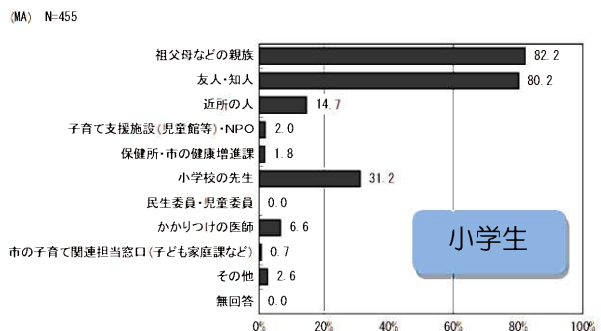
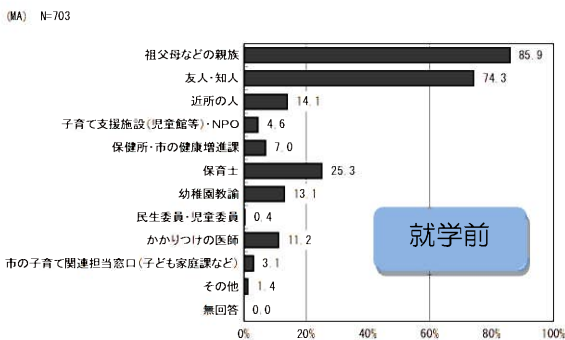
④日ごろ、子どもをみてもらえる人

就学前、小学生ともに、「緊急時や用事の時には祖父母などの親族にみてもらえる」が5割以上で最も高くなっています。次いで「日常的に祖父母などの親族にみてもらえる」が3割以上で続いています。



⑤気軽に相談できる相談先

就学前、小学生ともに、「祖父母などの親族」が8割以上で最も高くなっています。次いで「友人・知人」が続いています。

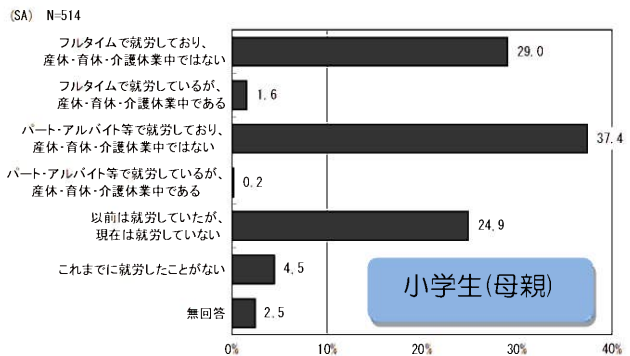
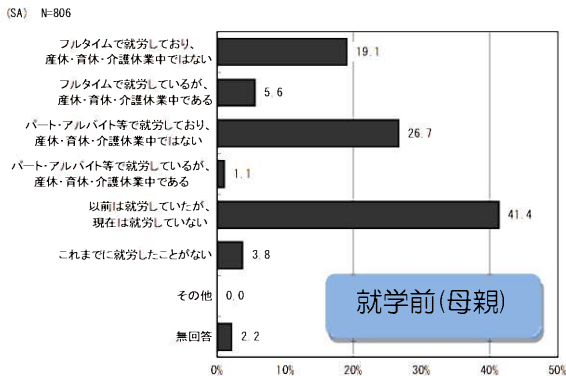


(2) 保護者の就労状況について

①現在の父母の就労状況

母親の就労状況は、就学前では、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が41.4%で最も高くなっています。小学生では、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が37.4%で最も高くなっています。

父親の就労状況は、「フルタイムで就労している」がほとんどを占めています。(グラフ省略)

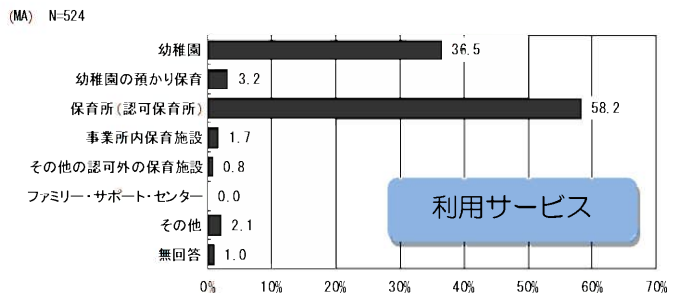
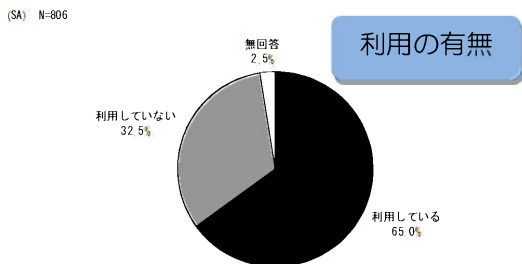


(3) 幼稚園や保育所などの利用について

①平日の定期的な利用状況 (就学前のみの設問)

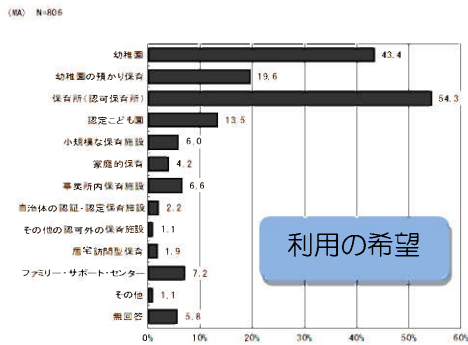
「利用している」が65.0%を占めています。

利用しているサービスは、「保育所(認可保育所)」が58.2%で最も高くなっています。次いで「幼稚園」が36.5%で続いています。



②平日の定期的な利用の希望 (就学前のみの設問)

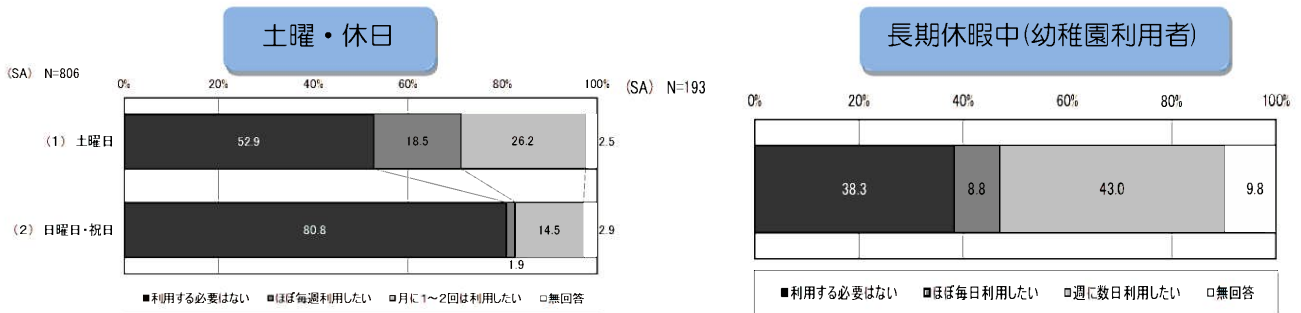
「保育所(認可保育所)」が54.3%で最も高くなっています。次いで「幼稚園」が43.4%となっており、現在の利用状況に比べると、「幼稚園」の割合が少し増加しています。



③土曜・休日の利用希望（就学前のみの設問）

土曜日では「利用する必要はない」が 52.9%を占めています。日曜日・祝日”では「利用する必要はない」が 8割以上を占めています。

長期休暇中では、「週に数日利用したい」が 43.0%で最も高く、次いで「利用する必要はない」が 38.3%となっています。

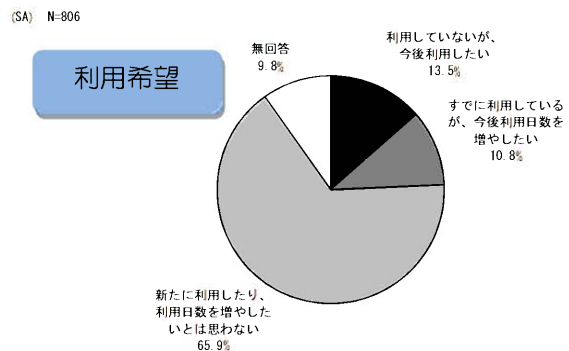
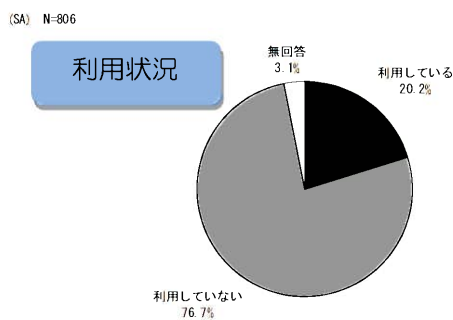


(4) 地域の子育て支援事業の利用について

①チャイベビステーションの利用状況と今後の希望（就学前のみの設問）

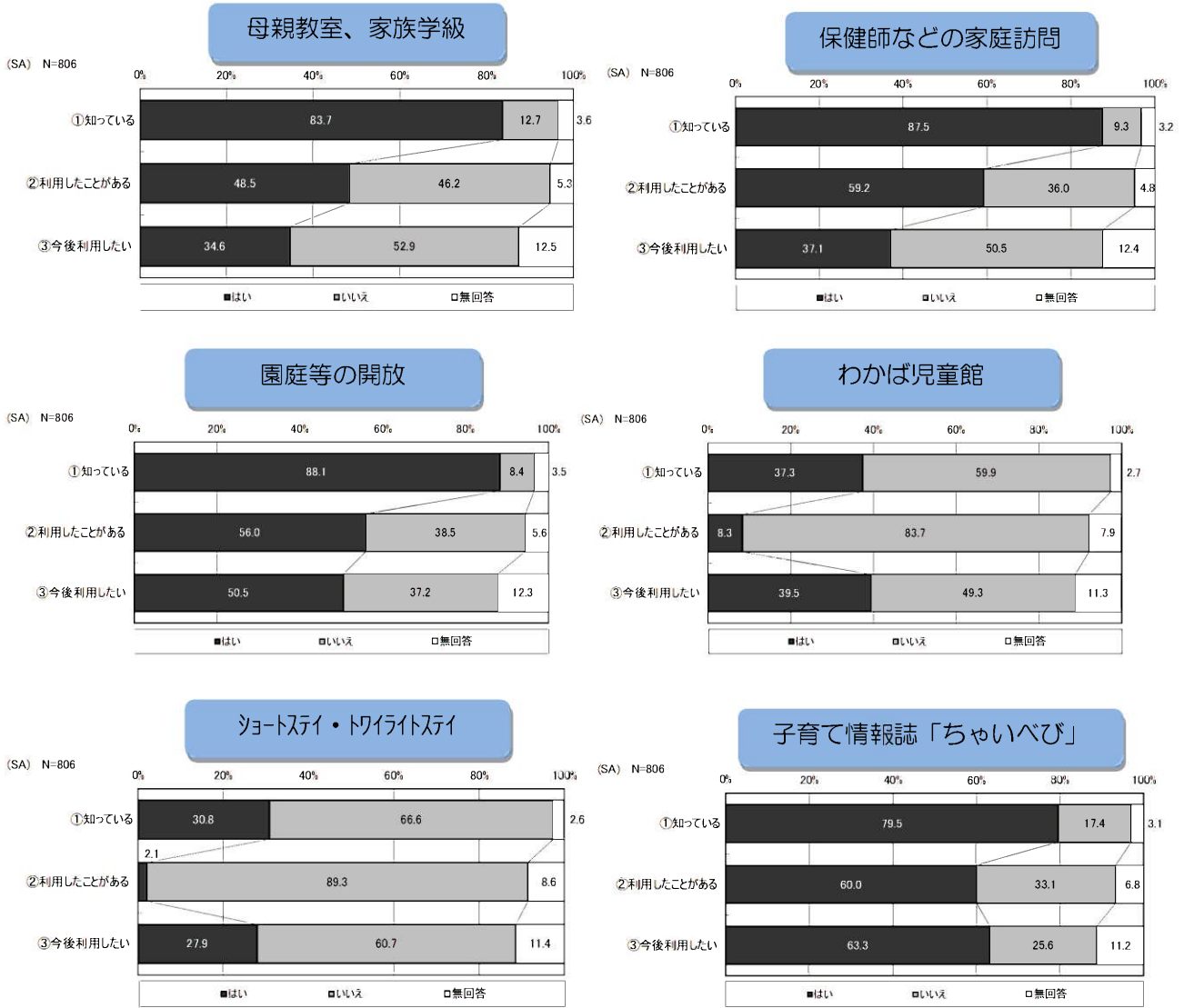
現在は、「利用していない」が 76.7%を占めています。

後は、「利用していないが、今後利用したい」が 13.5%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が 10.8%となっています。



②その他の事業の利用状況と今後の希望（就学前のみの設問）

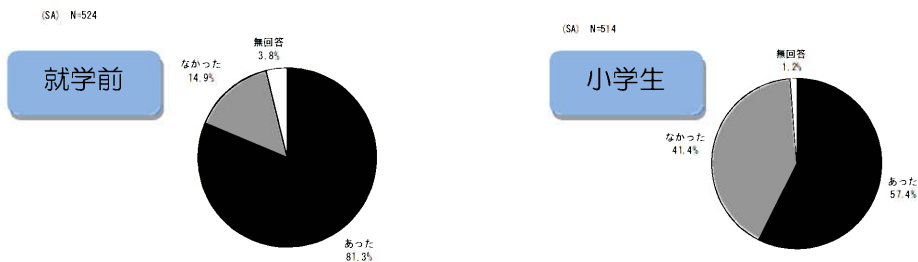
各事業の認知度、利用度、今後の利用希望は下記のとおりです。



(5) 子どもが病気の際の対応について

①病気やケガで幼稚園、保育所や小学校を休んだこと（この1年間）

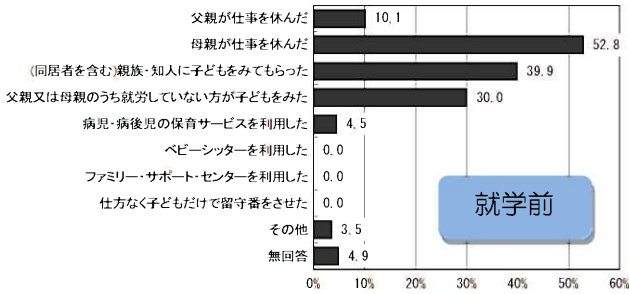
就学前は、「あった」が81.3%を占めており、小学生は、「あった」が57.4%を占めています。



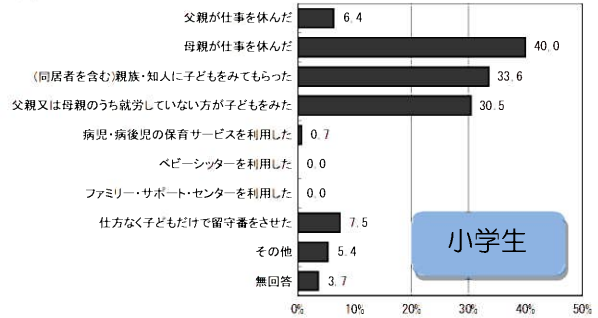
②幼稚園、保育所や小学校を休んだときの対応（この1年間）

就学前、小学生ともに「母親が仕事を休んだ」が最も高く、次いで「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」が続いています。

(MA) N=426



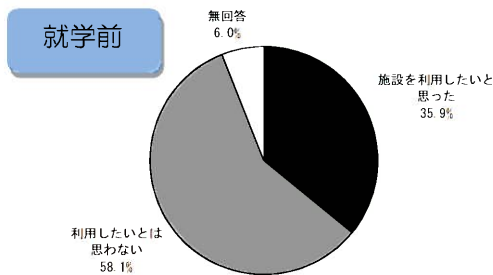
(MA) N=295



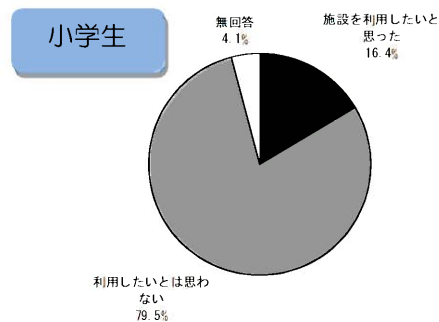
③病児・病後児保育施設の利用希望

就学前では、「利用したい」が35.9%、小学生では16.4%でした。

(SA) N=234



(SA) N=122

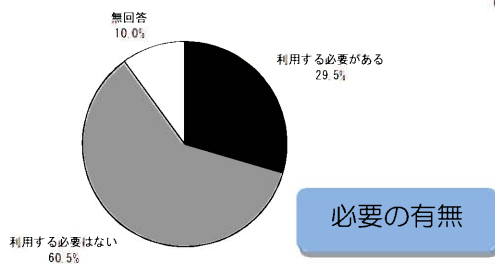


(6) 一時預かりなどの利用について

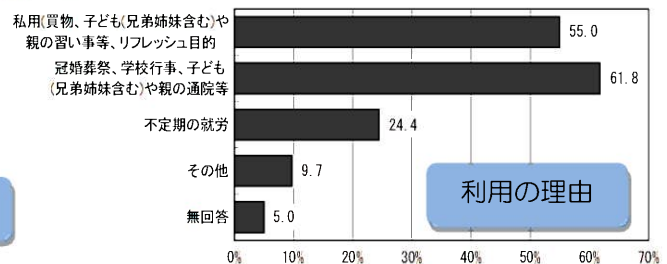
①子どもを一時的にみてもらう事業の利用必要性（就学前のみの設問）

「利用する必要がある」は、29.5%となっています。利用する理由は、「冠婚葬祭、学校行事、子ども(兄弟姉妹含む)や親の通院等」が61.8%で最も高くなっており、次いで「私用(買物、子ども(兄弟姉妹含む)や親の習い事等)、リフレッシュ目的」が55.0%となっています。

(SA) N=806



(MA) N=238



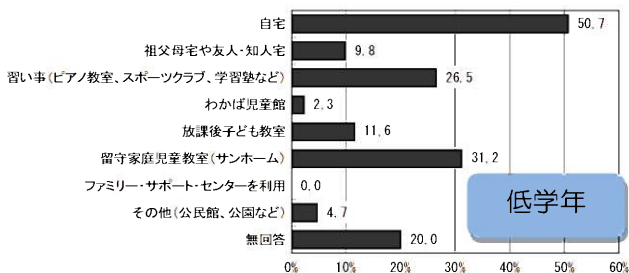
(7) 小学校の放課後の過ごし方について

①どのような場所で過ごさせたいか（就学前の保護者の場合）

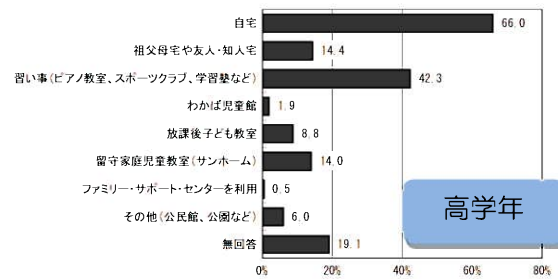
小学校低学年（1～3年生）の間の過ごさせ方では、「自宅」が50.7%で突出しています。「留守家庭児童教室（サンホーム）」が31.2%が続いています。

小学校高学年（4～6年生）の間の過ごさせ方では、「自宅」が66.0%で最も高くなっています。「留守家庭児童教室（サンホーム）」は14.0%となっています。

(MA) N=215



(MA) N=215

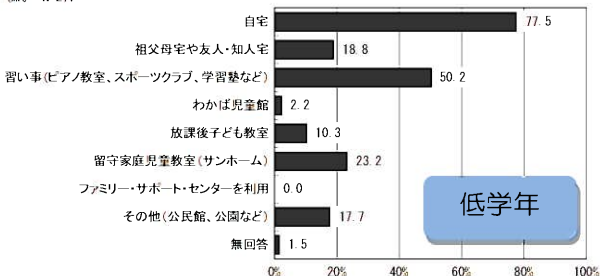


②どのような場所で過ごさせたいか（小学生低学年の保護者の場合）

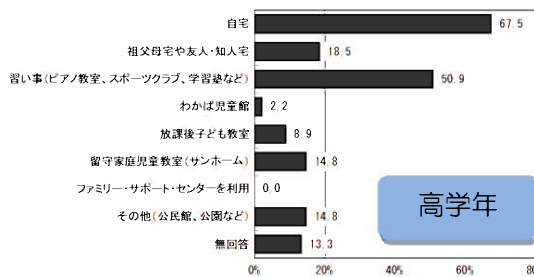
小学校低学年（1～3年生）の間の過ごさせ方では、「自宅」が77.5%で最も高くなっています。「留守家庭児童教室（サンホーム）」は23.2%となっています。

小学校高学年（4～6年生）の間の過ごさせ方では、「自宅」が67.5%で最も高くなっています。「留守家庭児童教室（サンホーム）」は14.8%となっています。

(MA) N=271



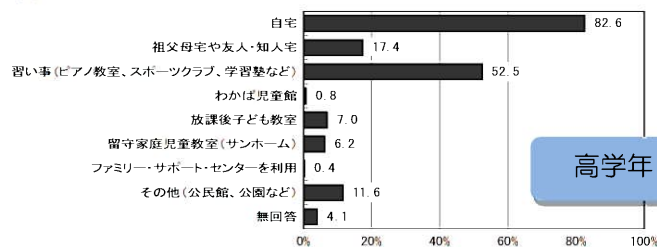
(MA) N=271



③どのような場所で過ごさせたいか（小学生高学年の保護者の場合）

小学校高学年（4～6年生）の間の過ごさせ方では、「自宅」が82.6%で最も高くなっています。「留守家庭児童教室（サンホーム）」は6.2%となっています。

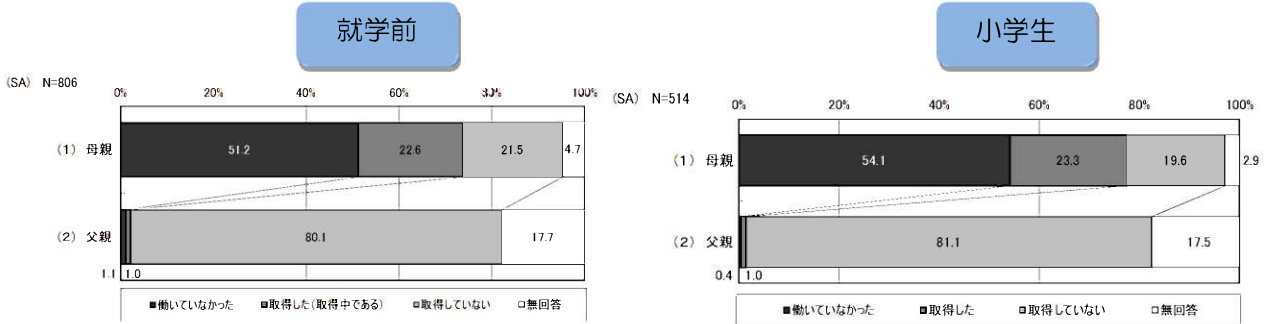
(MA) N=242



(8) 育児休業制度について

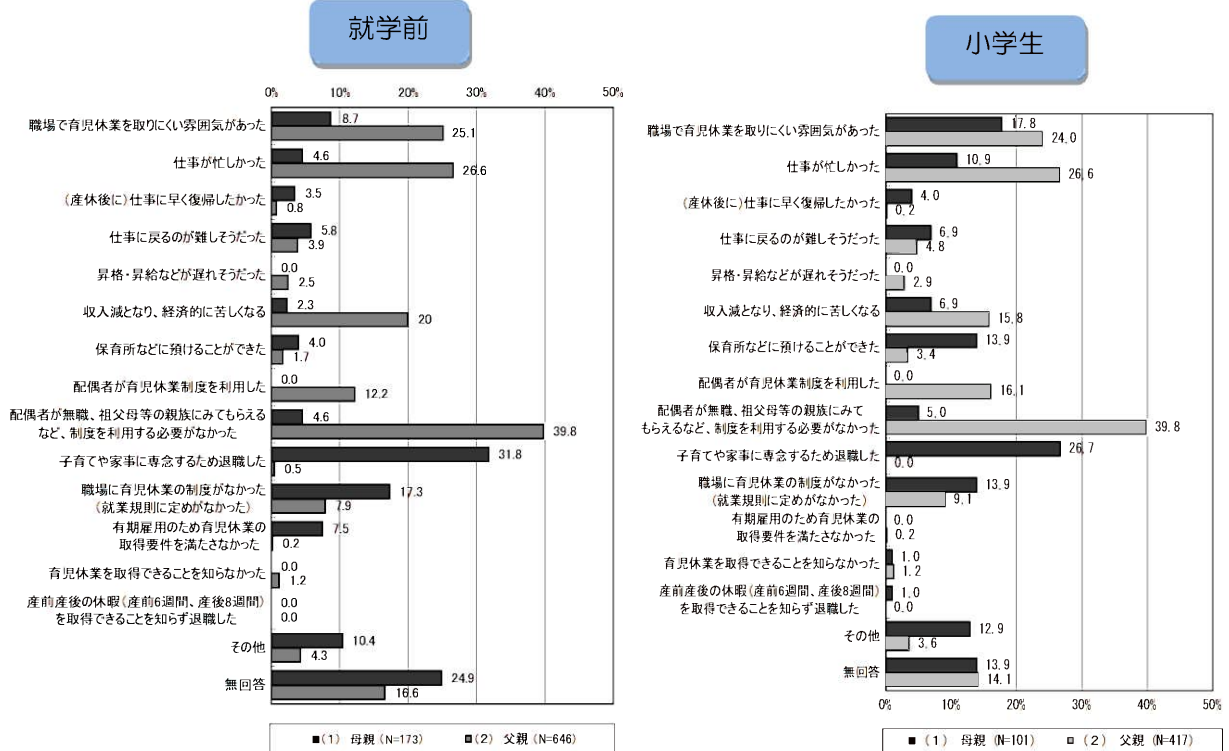
① 育児休業制度を利用したか

就学前、小学生とも、母親では「働いていなかった」が5割程度を占め、父親では「取得していない」が8割を占めています。



② 育児休業制度を利用しなかった理由

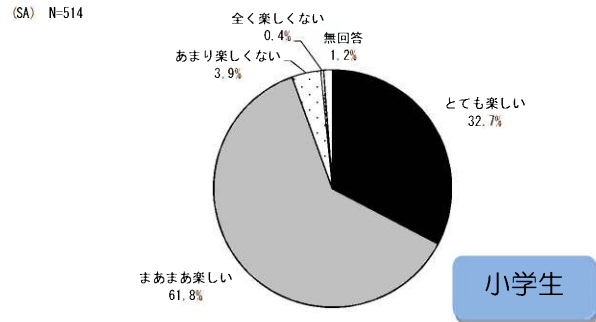
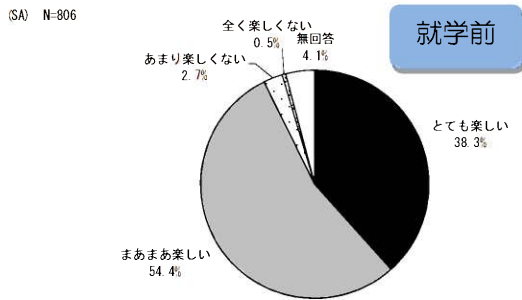
就学前、小学生とも、母親では「子育てや家事に専念するため退職した」が最も高くなっています。次いで「職場で育児休業を取りにくい雰囲気があった」が続いており、父親では「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が最も高くなっています。



(9) 日常の子育てなどについて

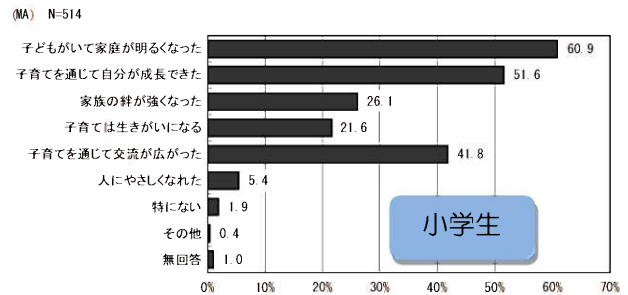
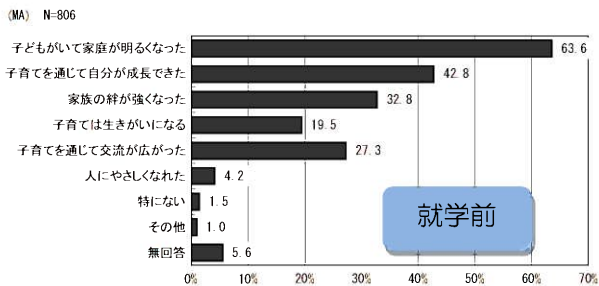
①子育ては楽しいか

就学前、小学生とも、「とても楽しい」または「まあまあ楽しい」と回答した割合が9割を超えています。



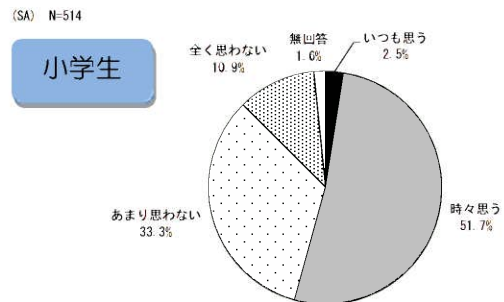
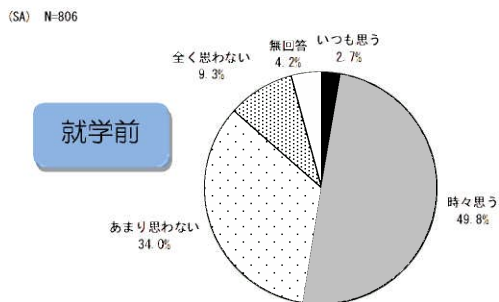
②子育てを通してよかったこと

就学前、小学生とも、「子どもがいて家庭が明るくなった」が最も高く、次いで「子育てを通して自分が成長できた」となっています。



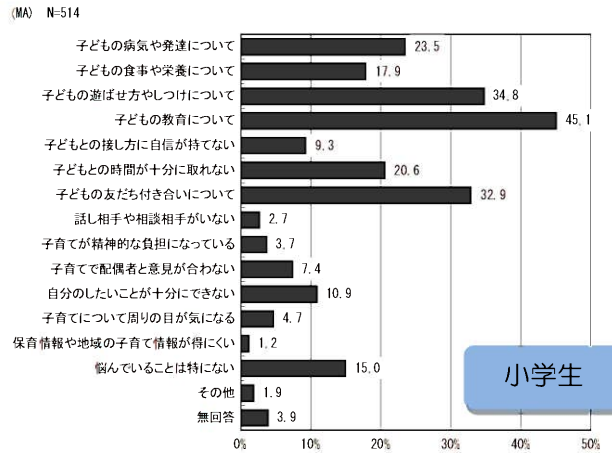
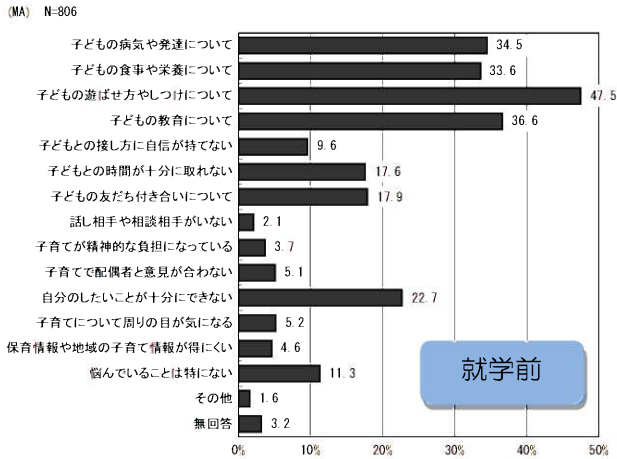
③子育てが辛いと思うこと

就学前、小学生とも、「いつも思う」または「時々思う」と回答した割合が5割を超えています。



④子育てに関する悩み

就学前では、「子どもの遊ばせ方やしつけについて」が47.5%で最も高くなっていますが、小学生では、「子どもの教育について」が45.1%で最も高くなっています。

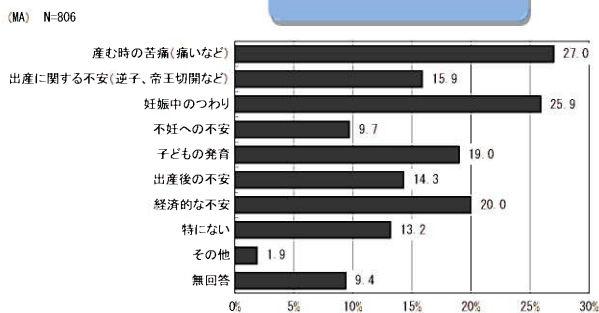


(10) 妊娠・出産について

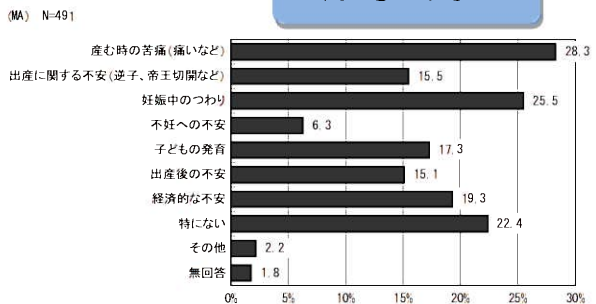
①妊娠・出産の不安やサポート

就学前、小学生とも不安や悩みでは、「産む時の苦痛（痛いなど）」が最も高く、次いで「妊娠中のつわり」となっており、必要なサポートでは、「赤ちゃんの育児相談」が最も高く、次いで「子育て中の人との交流」となっています。

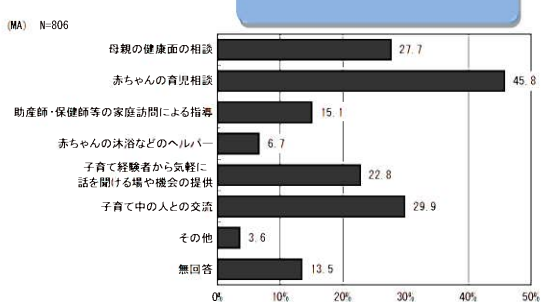
不安等・就学前



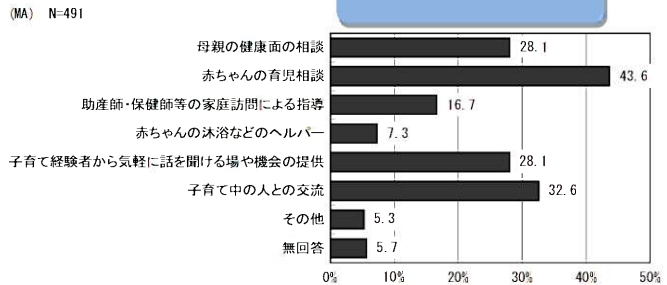
不安等・小学生



サポート・就学前



サポート・小学生

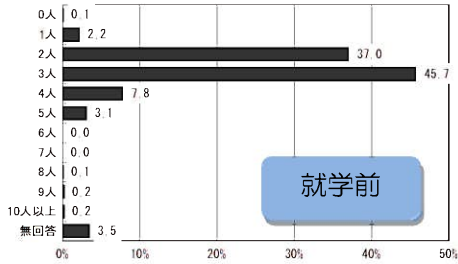


(11) 子どもを何人育てたいかについて

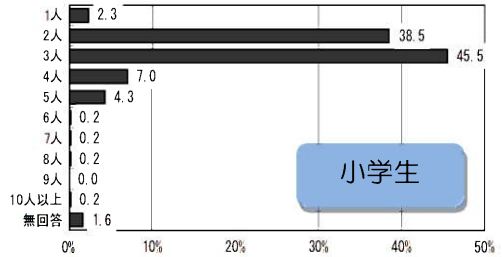
①何人育てたいか（理想）

就学前、小学生とも「3人」が最も高く、次いで「2人」となっています。

(数量) N=806



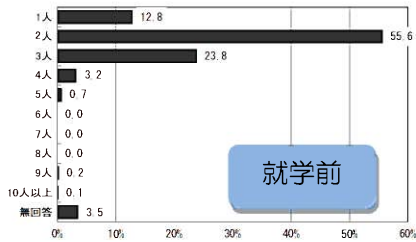
(数量) N=514



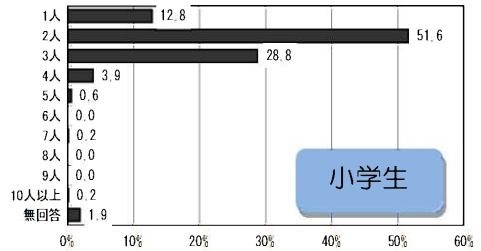
②何人育てることができるか（現実）

就学前、小学生とも、①の何人育てたいか（理想）の回答と比べ「3人」の割合が下がり、「2人」と「1人」の割合が増えています。

(数量) N=806



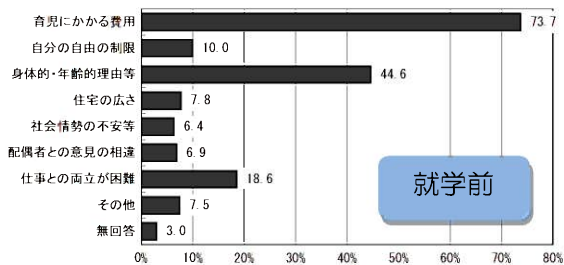
(数量) N=514



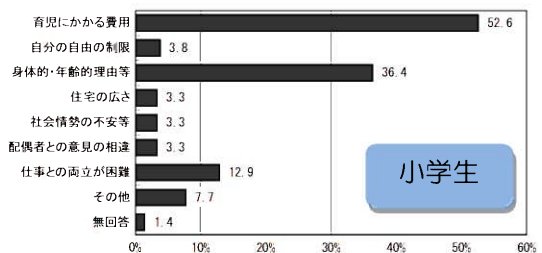
③理想の人数を育てることができない理由

就学前、小学生とも、「育児にかかる費用」が最も高く、次いで「身体的・年齢的理由等」となっています。

(MA) N=361



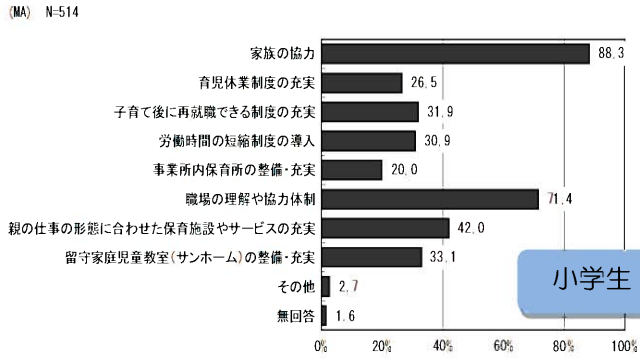
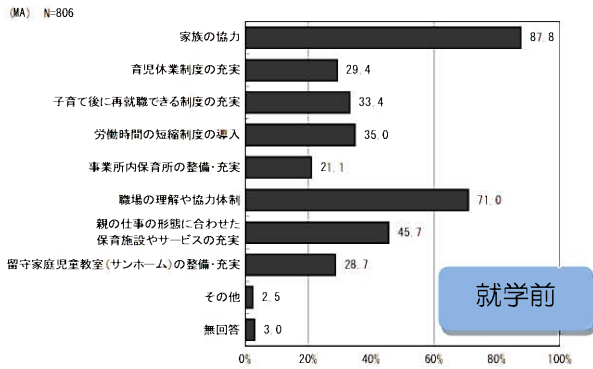
(MA) N=209



(12) 仕事と子育ての両立について

①仕事と子育ての両立に必要なこと

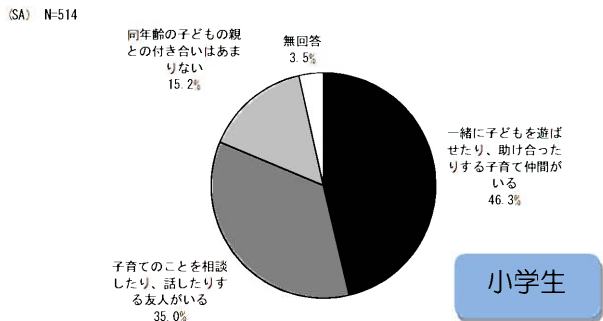
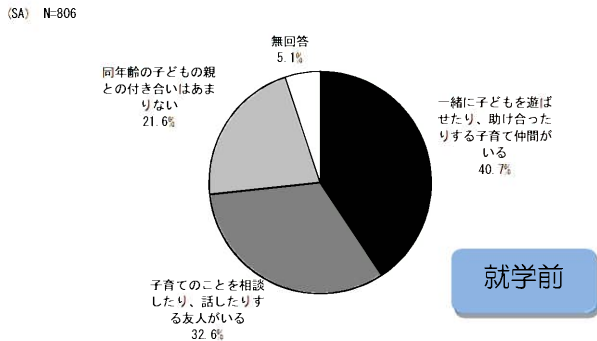
就学前、小学生とも「家族の協力」が最も高く、次いで「職場の理解や協力体制」となっています。



(13) 地域での子育てなどについて

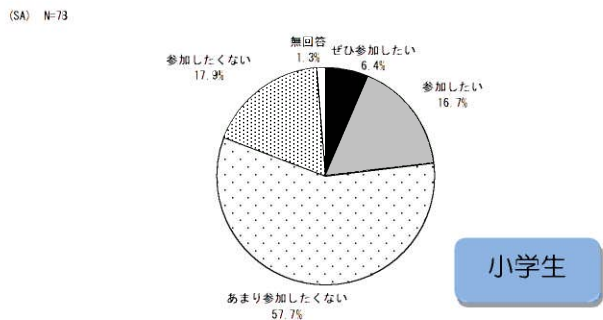
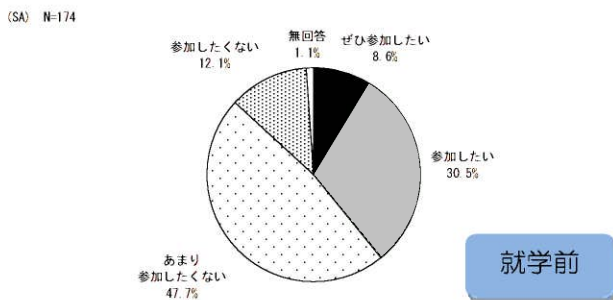
①子育ての仲間について

「一緒に子どもを遊ばせたり、助け合ったりする子育て仲間がいる」または「子育てのことを相談したり、話したりする友人がいる」と回答した割合は、就学前で73.3%、小学生で81.3%あります。

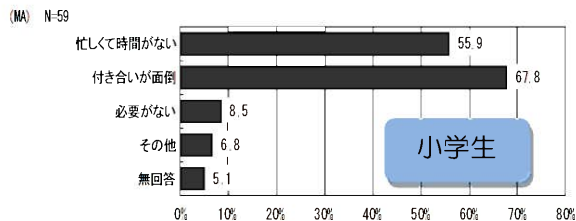
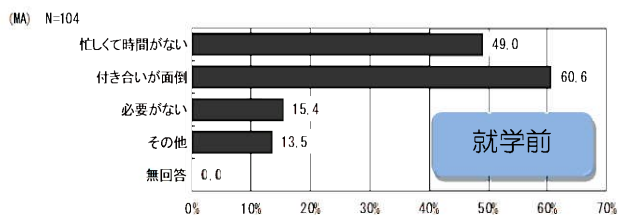


②子育ての仲間作りの機会があれば参加したいか

就学前、小学生ともに「あまり参加したくない」の割合が高くなっています。

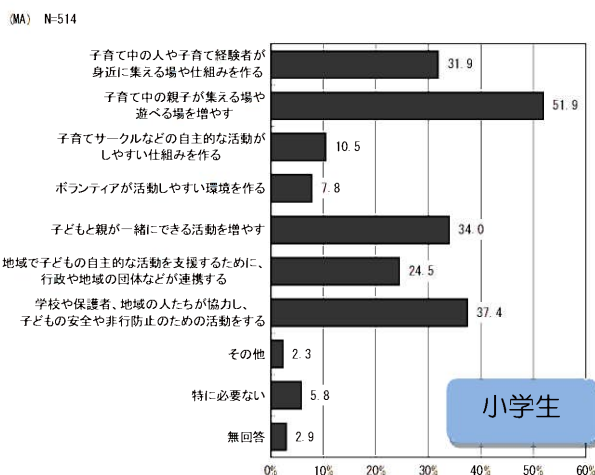
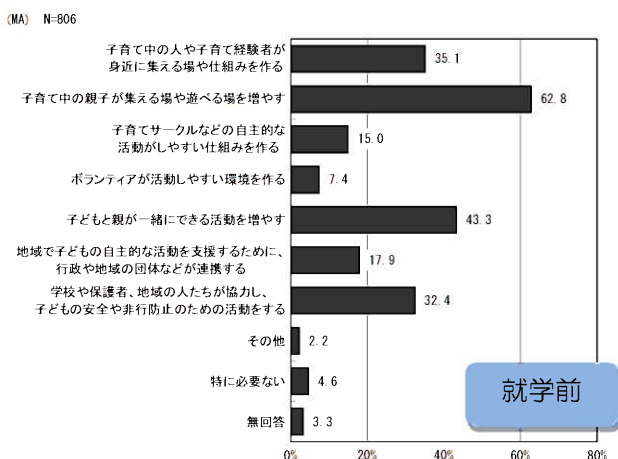


【参考】「参加したくない」または「あまり参加したくない」の理由



③安心して子育てするための地域での取り組み

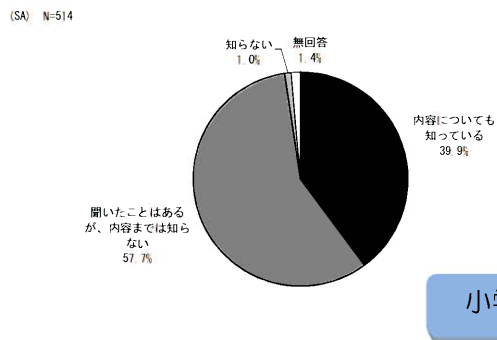
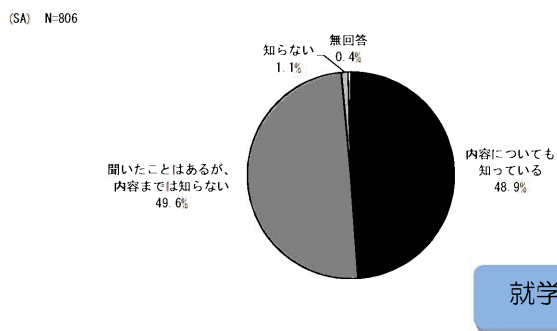
就学前では、「子育て中の親子が集える場や遊べる場を増やす」が62.8%で最も高く、次いで「子どもと親と一緒にできる活動を増やす」が43.3%となっています。小学生では、「子育て中の親子が集える場や遊べる場を増やす」が51.9%で最も高く、次いで「学校や保護者、地域の人たちが協力し、子どもの安全や非行防止のための活動をする」が37.4%となっています。



(14) おっぱい都市宣言について

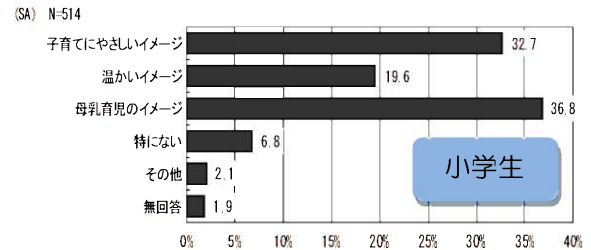
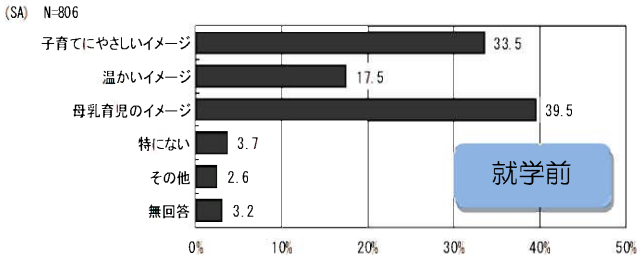
①認知度

就学前、小学生ともに「聞いたことはあるが、内容までは知らない」が最も高くなっています。



②イメージ

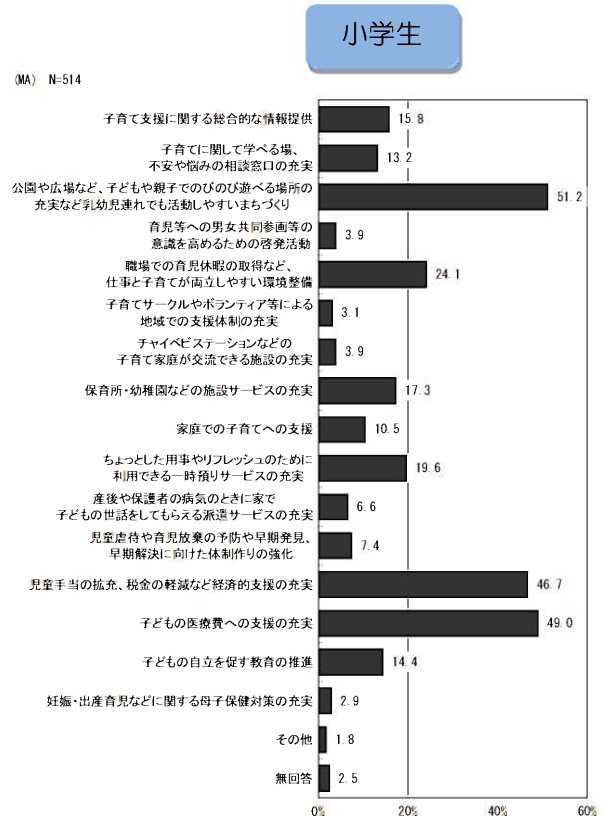
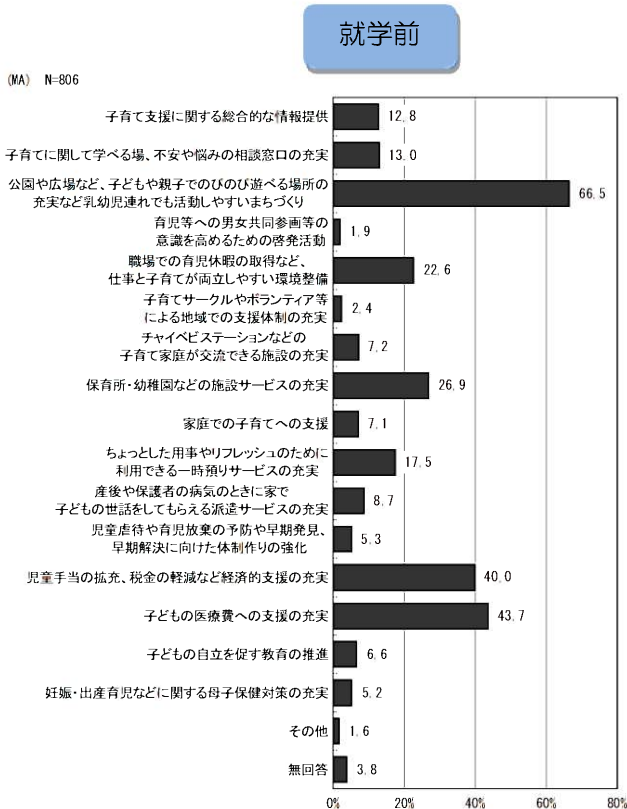
就学前、小学生ともに「母乳育児のイメージ」が最も高く、次いで「子育てにやさしいイメージ」となっています。



(15) 子育て支援等についての今後の要望

①子育て支援等の要望

就学前、小学生ともに「公園や広場など、子どもや親子でのびのび遊べる場所の充実など乳幼児連れでも活動しやすいまちづくり」が最も高く、次いで「子どもの医療費への支援の充実」や「児童手当の拡充、税金の軽減など経済的支援の充実」といった経済的支援も高くなっています。



②自由記入欄（主なもの）

就学前
子どもの一時的な預かりが、もっと簡単に気軽にできるとよい。
一時預かりが、半日単位でなく、30分単位で利用料が設定されると助かる。
日曜、祝日など休みの日の一時預かりがあるとよい。
休日や夜間に小児科で診てもらえる体制（光市内で）
子どもの医療費助成（乳幼児医療費助成）の所得制限を撤廃してほしい。
医療費助成の適用が前年の収入で判断されるので、育休中に困った。
医療費の無償化の対象年齢を拡大（小学生や中学生まで）してほしい。
出勤時間との関係で長期休暇中のサンホームの開始時間が早くなると助かる。
サンホームの利用学年を3年生までから6年生までに引き上げて欲しい
土、日、祝日も定期的に園庭開放してほしい
親子で参加できるイベントがあればうれしい
集団健診を決まった日にするのではなく、自分の空いた日から選べるようになるとうい
市役所とあいぱーくが離れているので、小さい子どもを連れて2か所手続きに行くのに不便を感じた
第3子以降の子ども（多子世帯）への手当ての充実
家から歩いていけるところに公園があるとよい
公園には、大きい子ども向けの遊具のところが多いので、小さな子どもが遊べる遊具をつくってほしい
より身近なところで子育てサークルや集いの場、憩いの場があるとよい
雨の日でものびのび遊べるような屋内施設があったらうれしい
安心して遊べる子どもの遊び場を増やしてほしい
産後のヘルパーがいたら助かる
子どもたちが関わる公共施設が老朽化しており、少々不安
小・中学校のトイレをきれいにしてほしい。また、洋式にしてほしい
児童館が少ない
行政だけでなく、家庭や地域がともに子育てについて取組める環境が必要
園ごとの違いや空き状況などの情報を提供してほしい
制度はあるのかもしれないが、知らないと利用できないので、情報がすぐ分かるようにしてほしい
集いの場などに積極的に出て行けない家庭への支援
相談を受ける人の質の向上
子育て中の母親は、年齢を問わず悩み、孤独になりがち。子どものことでも仕事のことでも何でも話せるときがあると楽になるのでは。専門家でなく、母親同士でもよいのかも
仕事を辞めると保育園を退園し、友達と別れ、新しい環境に入らなければならない。認定こども園では、保育園から幼稚園に変わっても環境には変化がないと聞いた。
各機関が個々に動くのではなく、包括的に子育て事業、地域事業を市がリードすることを期待する
行政は母子には手厚いが、父子のことも考えてほしい
市内の病時保育施設が利用できなくなり、不便に感じている
幼稚園や保育園に併設した病児保育があると急なときに助かると思う
ファミリー・サポート・センターは利便性に問題があり、利用できない
日曜日、祝日や夜間の保育があるとよい
0歳のとき、なかなか預かってもらえない。特に、年度途中
働きたいときに、希望の園に入れなかった
同時入所している間の保育料の軽減よりも、家庭の子どもの人数に応じた保育料軽減の方が平等だと思う。
出産後に保健師さんが訪問するのは本当に良いことだと思う
ベビーカーで移動しやすように、歩道などのバリアフリー化を進めてほしい
予防接種の補助

就学前
市だけでなく、企業も育児支援について変わらないとだめだと思う
就園奨励費に所得制限があるのはおかしい
幼稚園の園開放は、気軽に行けてとてもよい。これからも続けてほしい
市立幼稚園を3年保育にしてほしい
通園区域外に住んでいるので、市立幼稚園に入れなかった
行事で使う施設に、幼児が過ごせるスペースがあるとよい
親のニーズは多岐に渡るが、子どもにとっても良いことを考慮して支援を進めていくとよい
オムツ替えや授乳できる場所を増やしてほしい
自分の子どもたちにも将来光市に住んでほしいので、若い世代が住める環境にさらになるように期待している。
など

小学生
一時預かりサービスは、あるととても助かる
子どもの夜間の救急は周南市になってしまう
年齢で制限（3歳までなど）してもいいので、所得制限せず一律無料にしてほしい
義務教育期間中の医療費無料化
小学校就学後も、医療費無料とまではいかなくとも、自己負担を一部（負担上限を設けるなど）にするなど、医療費支援の充実
すべて行政主導ではなく、親の主体性を促すような支援になればよいと思う
サンホームは長期休暇中朝8時からだが、仕事に間に合わないので早くなるとよい
サンホームの利用を高学年まで拡大してほしい
道徳教育を増やす。子どもたちの態度、ふるまいが目に見えることがある。
子育て支援を小さい子に限定せずに大きく考えてほしい
子どもはたくさんほしいが、経済的に難しい
集団健診では決まった日に行くのは難しいので、個人でかかりつけの病院でできるとよい
地域の公園にあった遊具が老朽化や危険ということで撤去され少なくなっている
地域の方との交流や高齢者の方と子どもの交流があれば、自然と学ぶこともあると思う
子どもがのびのび遊べる場所が少ない
ボールなどで子どもたちが走り回って遊べる環境があるとよい。学校開放はとてもありがたいこと
放課後や長期休暇中に高学年の子どもが安心して過ごせる場所があればよい
小学校が少人数で、よさもあるが、今後、中学校、高校と人数が多くなる中でのコミュニケーションの取り方は大丈夫かと不安を感じることもある
制度を知らないと、いざと言う時に利用できない。制度のアピールが必要だと思う
スポーツ、習い事、塾など、市の教育として情報提供があればよい
中学校で不登校の子どもが結構いると聞く。中学校時代は色々な体験や友だちとの関わりで多くのことを学んだ時期。少しでも社会に出て行けるよう支援してほしい
コミュニティスクールが始まったが、学校と地域の行事が重なるなど、まだまだ連携が必要。子、親、地域が色々な面で関わりが持てるようになってほしい。
市内の病時保育が休業しているので不安
様々な勤務体系に対応した保育サービスが増えると助かる人が増えると思う
子どもの年齢が離れており、同時入所の保育料無料化の恩恵を受けられなかった。
放課後子ども教室をどこでされているのか知らない。参加してみたい。
防犯パトロールの方が見守ってくれるのはとてもありがたい。
CSP（コンセンサス・アライング）の講座を開き、養育の底上げをする。
インフルエンザ予防接種の補助をしてほしい。子ども2回接種は経済的に負担が大きい
仕事と両立しやすい環境整備を望む
など